

萬葉類葉抄補闕

名所

十四

山陽道
播磨備前備中備後
安藝周防長門
南海道
紀伊淡路阿波讃岐
伊豫土左

八	五	三	八	和書門
九	五	五	八	
一	五			
冊	架	函	號	類

内閣文庫	
番號	和 8538
冊數	15 (14)
函號	200 199

内閣文庫			
二〇〇函	八	五	和
二	一	三	書
三	九	八	
架	冊	號	類



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



用
日
和
國
圖
手
書

山陽道

攝津

備前

備中

備後

南海道

伊予

淡路

河内

後



伊 豫

淡 路
土 左

阿 波

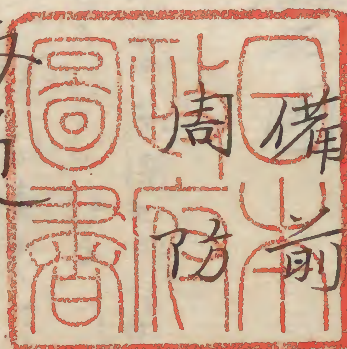
讃 岐



山 陽 道

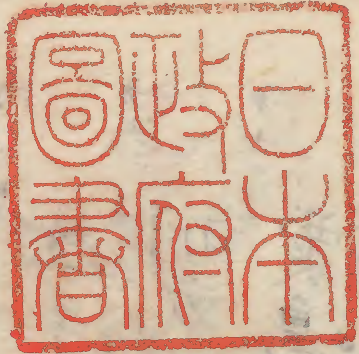
播 磨
藝 予

南 海 道



備 前
長 門

備 後

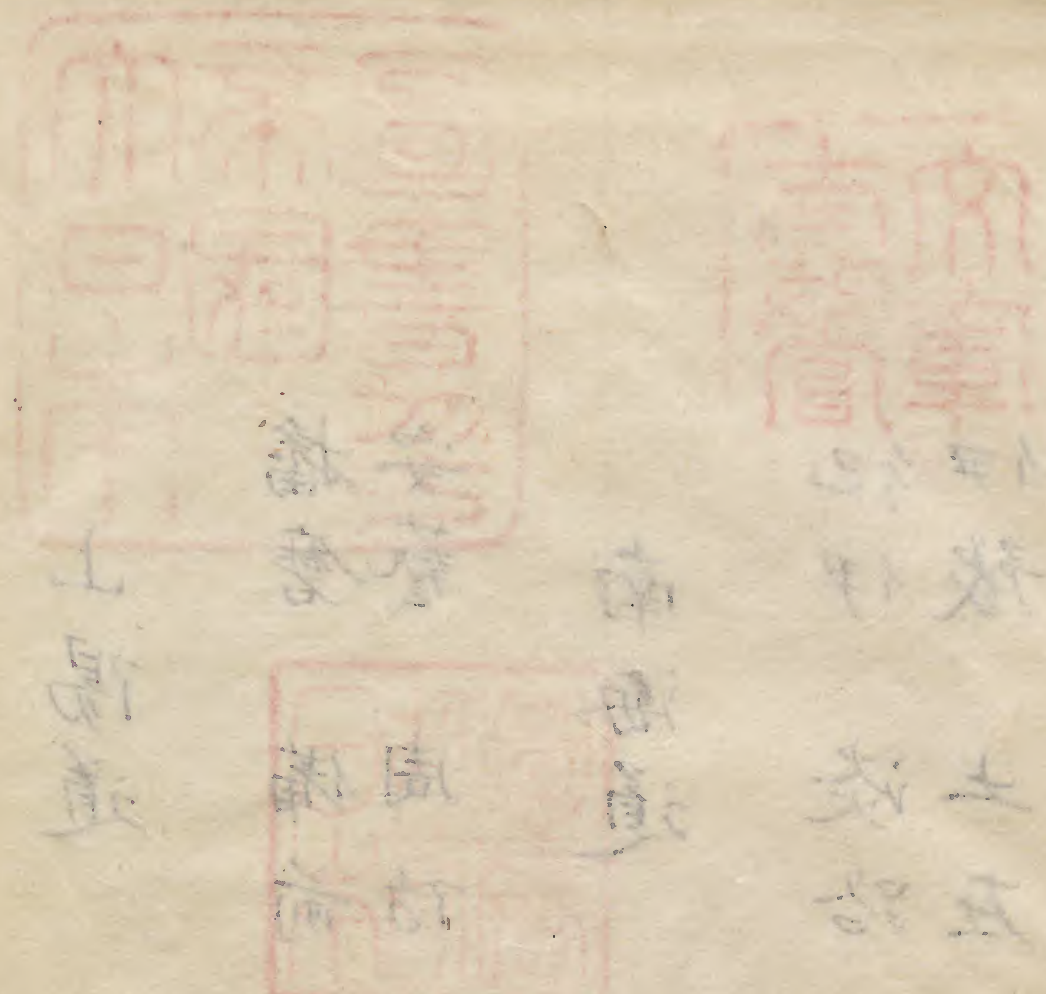


類葉抄補阙名所部第六

播麻石國

和名抄之波里萬
名義未詳

今葉赤染の集をとりまじりある人のつらをおこ
せしむるにけり山を合ふにむらりハまらるをりいさ
けりとおかきこゝるん又云人のけりけりけりけり
おこせしけりけりけりけりけりけりけりけりけり
和泉掃播麻の針をわたりけりけりけりけりけり
針間國造一其外日本記ホ所し針間(本記)
古事記此地を所用し破布を以り為屋印造此
或説日神功皇后三韓征伐之時御裳のわこり
とこいし針を求めしとくととととととととととと
世説信(一)石三用上所(二)



明石

^{三六八} 留火の明乃大門（イ）まゝいりやあまのりある家あつたす
^{三上九} あアささるひなのも道志まき八眼（ロ）の明りやうも
^{三上三三} 又うさハぬみ浦（ハ）の焼火（ニ）のわき入ぬいしこふ
^{三上三九} 座子ち月（ホ）開の門（イ）はハツたれも
^{三上三九} 明方（イ）渚（ロ）于れをあまよりハ下りて久家ちはぬハ
^{オ七十九} 栗鳴（イ）はこもワうんとさも赤る乃門（ロ）はささ紀り
^{オ七十九} 昔舟ハ明旦石（イ）のくまはあましめぬ奥方ささるあまのり
^{オ七十九} あまのりはうしはうし
（イ） 和名致明石郡
（ロ） 幕に在知
（ハ） 七寺初初海若石
（ニ） 散礼

藤江浦

^{オ三} あまのり（イ）の藤江浦（ロ）は下りぬあまのりはささる
^{オ三} 一本は伊江へのさるの
^{オ六} 荒妙（イ）のさみ水浦（ロ）は鞠つると
^{オ六} 本寺初々八福知
^{オ六} 井ハ江ト通ス
^{オ六} 水江寺
^{オ六} 木下浪定浪安（イ）いささしさ江の浦（ロ）はささる
^{オ六} 檜笠浦
^{オ七} 推古紀十一復四舎人（イ）王（ロ）是汝赤石
^{オ七} 仍花サ干赤石檜笠浦上
^{オ七} 仰南備野ハリさぬし天降ふ日笠水浦はささる

幸荷島

風土記云韓舟鳴韓八破船折漂之物
就於此島故云韓荷島

六十六

幸荷乃島々鳴まより吾やしを尺ねハ

七行 御古味は細

六十七

玉藻川幸荷の鳴まあまもろあまもろしあねや家

都多乃細江

六十八

風吹浪り人々あまもろ細江浦

名子隅

右和銅年中未奥伴之改ニ字ハ者如安奈支須養有リ
後ニ字ハ素考張下字シテハウラナシト推考ス人ヨリ

船瀬

六十九
七十

名子隅の船瀬又ハ淡名島 七行 幼少し
行ハ尺ハあまもろ名子隅の船瀬乃流

鎗磨川

和名鈿鎗磨那

七十一
七十二

思賀麻江ハあまもろあまもろ思可麻河泊シ人ヨリ
いなみぬハゆきぎぬら

室浦

和名鈿日郡幸室
和銅年中
加辛まじソリノ文粹捏生

鳴島

七上
七下

しつむみ風のうすをきりしむをけさるに任公集
又合考はむかひのまの海ありて 柳島山境なり 神代
史のまはりし

まのふを祀るやいしむわたり比治奇なるをりてつる

備前國

和名欽云 此比乃養知乃久知

四上
四下

いみじの人のむらさき色の酒痛者そへ母貫美し

児島

和名欽一 石之郡
神代記上 次生 吉備子 洲

六上
六下

やうし海に吉備の児島をよみてゆへ 築紫の島ありて

七上
七下

波の音又ゆゑなる雲の影ありて ありてはれはる

雲かたれ 小島の神の悲者月をたし 一とて海をいつや

小島ノ 神傳ふよしりて

若冲平 戒世所

三ノ下三十九

アミもりのり 鞆浦の木杏樹 山多草 山吹 山桜 山梨

三ノ下三十九

鞆浦乃 殊に 堂の果 又人ぞ ねん 娘を こと せし せめ あり

三ノ下三十九

殊のとき 根を 堂木 みる 人を かりし ころ かり せん

切七

あまふ 那航も せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

切七

しん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

安藝國

長門島

玉浦

玉浦

カ十五

悉のちを かくと 山鳴の 小松 舟はくを 合ふ 人ふ こと あり

切七

なごの ぶを げふ せん せん せん せん せん せん せん せん せん

是ハ七門 固ん 不 下 次 といふ

玉浦

曰名在 紀伊國

カ十五

ぬき 寺の 夜あけ ぬじ 玉浦 あり あり あり あり あり あり あり

相ノ十二

多麻路ノ...

七ヶ所ノ部街
教社堂

相ノ十六

多麻路ノ...

相ノ十五
相ノ十四
相ノ十三

大島

周防国

大島

和名敏大島郡

和名敏大島郡

相ノ十五
相ノ十四
相ノ十三

築路乃...

鳴門

今周防藩と云ん

相ノ十五
相ノ十四
相ノ十三

おきやこの...

麻里布浦

吹珂郡本
今セニリフ
松原と云ん

押上古 ずちぬまのゆきもたれぬ麻里布浦ヤ

押上古 大羽かちふつとてとゆき麻里布浦ヤ

押上古 いしうち近くありてふれぬ麻里布浦ヤ

安波嶋

周防国玖珂郡麻里布浦行之時作哥

大島八首之内也

押上古 山アもえんちのいふ波之麻を今もえん

押上古 安波思麻のありしとて妹もあはれなるわきあは

伊波比島

押上古 いへんかつとやこと伊波比島いふ人旅りしれを
押上古 今も松もいふ今伊波比島いふ人旅りしれを

般石國山

和名欽玖珂郡石国

押上古 周防方々般石國を越えりし人いふとせよあはれなる道

紀伊國

神代記云初五十埴神天降之時多將樹種而下此
大八洲國內播殖——昂紀伊國所坐大神是也
契中右士十植余由縁因鎮坐周和木國
伴者青鬚和銅來加之云

紀路

木路子ありと云名は山
紀圍勿論外紀路紀方木海木川木人ホ
画本回ノ部已云

兄山

孝徳記二年南自
紀伊ノ兄山ニ見
録

一八

紀関

吾有子り... 追ひて... 紀関也... 伊時留

坂上

木国の首... 雄乃響... 坂上... 九十九

安太郎

安太郎... 依記文... 神伊都郡... 此可記...

小為山

似山... 小井戸... 見...

七ノ三十九

安太郎... 小為... 乃... 久...

十下

安左... 人の... 乃... 久...

安太ハ和州宇智郡... 阿地ト云々所住人...

名草山

和名名草... 奈久郡

七ノ三十九

名草... 山... 乃... 久...

妻社

和名名草... 津麻... 神...

九十九

城... 乃... 乃... 久...

ゆり... 山... 乃... 久...

志磨

和名 志磨 郡 志磨 神社
神名 志磨 神社

吾欲子鳥ハ又つるを底あま阿根根の浦にまをひろくぬ

此等吉欲之野多ハ又セツ
或ハ頭と吉欲多ハ

藤白坂

播磨国 凡士 息長 帝日女 命
神 祀 紀伊 国 管川 藤白 之 峯
鎮奉其

藤白此三石を越ゆと伊之の家よりよめぬげも

粟島

神名 志磨 郡 加太 神社 智名 敏 海部 郡 又 太 此 所 志 磨 郡
隣 式 和 名 志 磨 郡 例 多 又 無 部 式 馱 馬 吟 左 八 正 志 磨 郡
詠 此 下 志 磨 郡 志 磨 郡

武庫比浦をあげこむ少船深流をなむ又つる之小舟

百傳の八代鳥をあげた粟の小舟ハ又まぬぬも

浪よりや井より粟のあまぬぬを口けり

此 志 磨 郡 志 磨 郡
志 磨 郡 志 磨 郡

玉津島

海部 郡 或 那 賀 郡

神代より志るを玉津島に
玉つ崎より又つるを丹波に

^{七〇三} ^{七〇三} ^{七〇三}
 王津嶋のうらなふあこもまわひはるあはれは
 王津嶋のうらなふあこもまわひはるあはれは
 王津嶋のうらなふあこもまわひはるあはれは

王浦

七〇三 紀伊国名所ノ海ノ敷着ノ中狭小ノ是昂玉津嶋
 今頃津ノ坐ノ所ト磯邊ノ一ト自去の略、あす又えん
 小島トイハル、磯をくハサシ山トイハル、小島トイハル
 玄菟子又曰名をシテ外未印トイハル

^{七〇二} ^{七〇二}
 自荒磯トヤシトシテ也玉津浦のえん小島乃夏ノ磯
 吾ある婦あこもれ玉の浦さるるわづな物と宿人

此奇蹟也 紀伊国作新し

奥島

契沖心昂玉津嶋 梅地濱トテ 奥トイハル、いしこれし
 島のまゝいしととと海をわん七部の磯が 標記され、凡自注
 合のら、ろろととと

神龜元年甲子冬十月五日幸于紀伊国時山部宿祢
 赤人作歌一首并短歌

^{六〇八} ^{六〇八}
 奥嶋 法をかきまゝ風吹く白波はまを ぬ干まゝむれ
 神代よりヒツキ、ふとまゝあはれ山の上

自注云 右年月不記但稱從駕玉津島也因テ今
 檢注行 幸年月以載之焉

^{六〇七} ^{六〇七}
 奥島荒磯の玉藻瀨トは、いづれゆゑ、おもふ人か

神子

契沖に記甲回し。若沖に玉津嶋。秋ノ中ニ授り
たれども是等神に授おの例し。大守の傍るを子
甲の例に。是等神に授おの例し。大守の傍るを子
何事にも可成し。神子午テトと通

若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦

若浦

神氣之冬十至海部郡玉津島。詔曰登山臨海。此
同最好不遠行。是以遊覽。故改弱源。名爲明支浦。
若浦名始見也

若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦

若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦 若浦

左日鹿

今在雜項村とん

若鹿 若鹿 若鹿 若鹿 若鹿 若鹿 若鹿 若鹿 若鹿 若鹿

妹島

前後紀國 歌多中ニアリ
姓日ハ

形見浦

若川 若川 若川 若川 若川 若川 若川 若川 若川 若川

黒牛浮

七十三

黒牛の浮ミシはキあふ百碑城の太ミ人キあミうミしミも

九十四

黒牛の浮ミシはキあふ百碑城の太ミ人キあミうミしミも

九十四

幸紀伊国時歌十三首内

等ミのミ姓ミとミ若ミえミいミぬミえミのミ以ミ偏ミ牛ミ方ミをミ忍ミぬミさミあミも

紀伊玉作四首内

湯等倚

七十三

湯ミのミ玉ミをミ捨ミとミ木ミ国ミ乃ミ湯ミ等ミのミ二ミ崎ミはミ此ミりミりミりミ

九十四

湯ミのミ玉ミをミ捨ミとミ木ミ国ミ乃ミ湯ミ等ミのミ二ミ崎ミはミ此ミりミりミりミ

九十四

湯ミのミ玉ミをミ捨ミとミ木ミ国ミ乃ミ湯ミ等ミのミ二ミ崎ミはミ此ミりミりミりミ

白神磯

九十四

湯ミ羅ミ前ミ始ミとミ色ミ白ミ神ミのミ磯ミ乃ミ一ミとミあミらミるミはミあミらミるミ

足代

縹鹿山

七十三

足ミ代ミさミくミ縹ミ鹿ミのミ山ミ乃ミ縹ミをミなミらミすミあミらミるミはミあミらミるミ

右紀伊国時歌中

イトカノ山

三名部浦

鹿島

幸紀伊國時歌十三首之内

三名部の浦にありて鹿嶋を治す所をいふ

切月山

切月山ゆきふしの影ありてふとや母を思ふらん

熊代

中皇命往于紀伊温泉之時御歌

君代も吾代も志ねや熊代の思乃多根をいさむとて
ちちのくハ左右を石代乃登り下るつれづれとて

結松

切月山をいふまよ言ふ西岩代をいふ言ふ
結松をいふ言ふ松島をいふ言ふ

熊代の思乃多根をいさむとて又いふ
結松をいふ言ふ松島をいふ言ふ
又いふ人と思ひ結松をいふ言ふ

白崎

若冲云或人云田庄とてし予先年凡鏡田庄一帯
傍溪金山ト云温泉有之女ノ名ニ二丁所中地宜
律者有眼睛ノ人ト云所ノ人ト云ト云ト云ト云
世所ノ人ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云
の流乃云々ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云
是金山の温泉を以て云々ト云ト云ト云ト云ト云

大宝元冬十月幸紀伊国時次

白崎ハ大にありて大なる生れ志のふ又つゝん

牟婁

和名勅云牟婁許郡

伊国の室のうにきよ

七奇初ウシ

三熊野

神名云牟婁郡熊野坐神社

三熊野の浦乃流木綿而宜からん心どてふあえぬも

鳥の吾ノまきまきしこの川ノ人とのち其熊野乃那

却食国志ノのあつちし生熊野の山熊野をききべし

熊野毎ハオホニ熊野毎トニモトヨリ又オホニ熊野の熊ト

あつち合連ナリカテ熊野毎ニ改ムトソリ

三穗石室

三穗の石室ハ凡れをあぬ

三十三九
 石室戸なるに松の末梢をいれむ昔の人をおもふよし
 三十三九
 石室八介ありけしと住ける人むすなりけし

同浦

三十三九
 麻幡夜の美保の浦に舟ありしにねともしは州の人んて
 七十三九
 風子三穂乃りて舟の舟人むし泥立ちり

神崎

狭野 園

新言より那舟のりて海美和射末と運漢人、家四五丁
 ちとけりてやを佐野にト村を共又海通流打住り
 一方向の山、林をすくすくしよぎたりて今家と又
 文に少れし、新く有てゆをしのををちとありて
 大に非し又佐野のりりて海にとも毎橋集路中向木
 合せりるや上野に泥立ちす大木集、已、崎又流りて
 ちかある、狭野のりり、ま声さくく、ち泥むしり

三十三九
 神崎 荒石と尺しを泥立ちぬつりり人むしり
 三十三九
 秋風の寒しむしを依農の家軒らん暮まぬまゆり

神武紀に紀伊國到蓬山一途新狹野到慈那神邑い

名高浦

七ノ十五

吾わし飛鳴ハスセウ石ヲ云 河胡根の浦ハ云々

大葉山

前後教首紀伊国中

七ノ二十一

大葉山ありしなりと云々

酢城島

八雲抄

妻實浦

日

七ノ二十五

酢城島の夏井浦云々の間

近江津井郡云々

飽浦

八雲抄并仙覚抄紀伊

御引等海よと云々飽浦の法

七ノ二十五

淡路國

淡路嶋ト云々可原平國部云

神代紀先以淡路洲為肥意不快故右之曰淡路洲一
事記曰淡路通洲部謂昔恥心

粟嶋

當集多流周防紀伊淡路阿岐不分明其因緣
出之偽後桑とつるの古事記云欲見淡路嶋而幸
行之時オシテルヤナニハサキヨイテメナテロカリ
ニシハ阿岐志摩オシロシ

三下五
カニ

武庫の浦をこまこむ小島粟嶋をぬるに足つ之小祀

カニ
カニ

粟嶋の浦をこまこむ小島粟嶋をぬるに足つ之小祀

野島

履中紀云對面淡路野島之海人せし

初五

三下七

吾ちり野嶋之浦をぬるに足つ之小祀

玉もつるぬめをこまこむ野嶋をぬるに足つ之小祀

三下七

一本云をこまこむ野嶋をぬるに足つ之小祀

粟路之浦をぬるに足つ之小祀

六下五

初五

日之御調と淡路の野嶋乃あはれ

初五

月之御調と淡路の野嶋乃あはれ

初五

吾ちり野嶋の浦をぬるに足つ之小祀

七下五
初五
野嶋

三上
十五

三津の崎浪をりこりこりのあこもるはなはな

六
六

松帆浦

淡路の松帆の浦乃船あり

七
初名乃温乃

瀧止

今井氏云三魚郡須本
城下二里許西

淺野

浅野乃淺野の雑あふれ

七
初名海若

三下
十

阿波國

阿波美栗崎トヨクノ奇原本國

讃岐國

和名欽陀奴岐ノ奇原本國

彌浦

幸讃岐國安益郡之時作歌

一八
七

十一
七

彌の浦乃あ戸をとめ、筑地のいしを焼くわごと
中くは君に恋して留る浦乃海に河ををよも川

枚浦

石第馬浦の本ナリ
口所、くしナリ

中ノ島 志北ノ松浦ノ島ノ人ガ其ノ名ヲ列シ

中溪

和名 敏那珂郡

狭岑島

和名 敏那珂郡

王彦ノ記 狭岑ノ島ノ中ノ水門 從者ノ一

狭岑ノ島ノ名乃 始モ一

書シ 伊佐ノ島ノ一 伊佐ノ島ノ一 伊佐ノ島ノ一

伊豫

和名 敏那珂郡

射狭庭山園

和名 敏那珂郡 伊佐ノ島ノ神社

三湯

和名 敏那珂郡

伊豫ノ島ノ一 射狭庭ノ島ノ一 伊佐ノ島ノ一

セーシ湯ノ上ノ

長前 敏那珂郡

熟田津

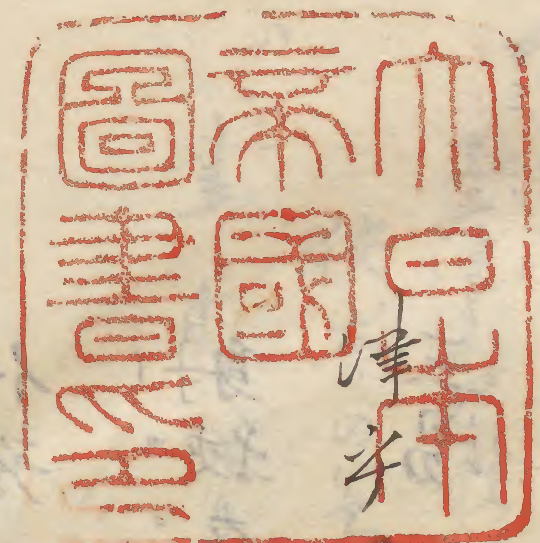
和名 敏那珂郡 熟田津

熟田津ノ島ノ一 伊佐ノ島ノ一 伊佐ノ島ノ一

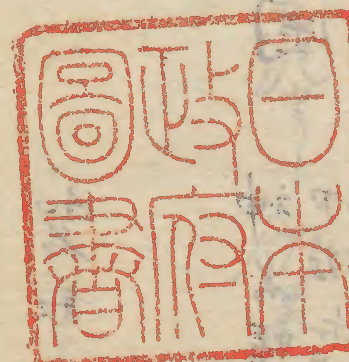
三十三
いさなとりはさきをいして知多豆乃
七
知多豆乃

三十三
同卷下式本号
三十三
柔田津乃一全

三十三
石式紀の太官人乃飽田津乃船のり
三十三
柔田津乃船のり



津田神



仙覚云伊予国野間郡
野間郡 野間郡 野間郡

土佐國

神名式云土佐郡都佐坐神社
當國大社一座耳也國子依神名云

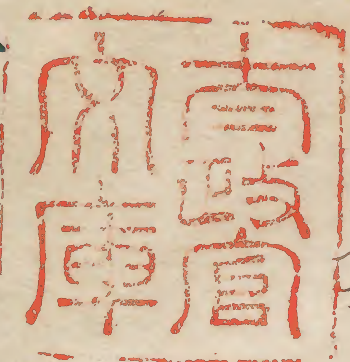
大崎

神小濱

三十三

石上乙麻呂卿配土佐國之時款

大崎乃神小濱ハセヨ
石加純ト云トイハシクニ



Red seal impression, likely a library or collection stamp.

Vertical handwritten text in cursive script, possibly a title or description.

Vertical handwritten text in cursive script, possibly a date or author's name.

Vertical handwritten text in cursive script.

Vertical handwritten text in cursive script.

Vertical handwritten text in cursive script.

Faint red seal impression at the top of the page.

Red seal impression in the middle of the page.

Vertical handwritten text in cursive script at the bottom of the page.

